

まちづくりって何？

どんな活動がまちづくりなの？

そんな疑問を解決できるヒントがココにある！

うつくしま、

まちづくり推進レポート

特集号



うつくしま、まちづくり推進レポート誕生秘話

まちづくりに関する情報を地域みなさんに知ってもらい、みなさんが主役のまちづくり活動に役立てていただきたいという思いから、『うつくしま、まちづくり推進レポート』は生まれました。

ここでご紹介する内容は、県庁まちづくり推進グループのホームページ（うつくしま、まちづくり情報発信局）でもご覧いただけますので、下記アドレスよりアクセスしてみてください。

URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>

中心街のまちづくり

会津若松市（七日町通り）	1
会津美里町（旧会津本郷町）	2
二本松市（竹田・根崎地区、亀谷地区、若宮・松岡地区、二本松駅周辺地区）	2
三春町（大町周辺）	3
塙町（塙駅前周辺）	3

羽州街道から見るまちづくり

追分の地・桑折（福島県桑折町）	4
地場産材を活かしたまちづくり・金山（山形県金山町）	5
清水を活かしたまちづくり・六郷（秋田県美郷町）	5

街並みを活かしたまちづくり

青森県黒石市	6
岐阜県高山市・飛騨市	7
京都府京都市	8
愛知県内子町・大洲市・西予市	9

海のむこうでは・・・

車優先からトラム（現代路面電車）へ～フランス～	10
-------------------------	----

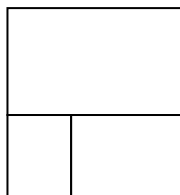
いい“まち”撮ろう

すばらしいまち写真コンテスト	11
----------------	----

元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業

三島町早戸地区での取り組み	12
---------------	----

表紙写真の関連記事



- P4 追分の地・桑折（福島県桑折町）
- P5 地場産材を活かしたまちづくり・金山（山形県金山町）
- P5 清水を活かしたまちづくり・六郷（秋田県美郷町）

この特集号は、これまで発行してきた Vol.1～25 の内容を簡単にまとめたものです。

詳細は  こちらを目印に、各号をご覧ください。

中心街のまちづくり

“まちづくり”と一言と言っても、地域によって活動の形は様々です。

しかし、共通していえる事は、「地域の良さって何だろう?」とみんなで考えながらまちづくりに取り組んでいることです。普段は見過ごしてしまいがちですが、地域特有の宝があるはずです!

ここでは、福島県内各地で取り組まれている活動をご紹介します。



Vol.3

1

会津若松市の七日町通りには、大正時代から昭和初期にかけての建物が数多く残っています。これらを保存・外観修景することで「大正浪漫調」の空間を創出し、目で楽しみながら街なかを散策できるような仕掛けづくりに取り組んでいます。



白木屋付近



渋川問屋



駅ではイベントも!!



商店も修景され、街並みになじんでいますね!



修景された七日町駅

平成 6 年、一部の商店主が一体となって「七日町通りまちなみ協議会」を設立し、まちづくり活動が始まり、地域の特色である城下町らしい街並みの復元に向け、歴史的な建物の保存や修景に取り組みました。様々な困難を乗り越え、現在では、大正時代を感じさせる街並みが形成されるようになりました。

～ちよーと一息～



みなさんは「ヒルサイドテラス」に行ったことはありますか? 東京都の代官山にある「ヒルサイドテラス」は、プライベートな空間である住居と、パブリックな空間である店舗やオフィスが共存する複合建築物群です。

福島県男女共生センター「女と男の未来館」を設計した槇文彦氏が長年に渡って手がけたものです。付近には、エジプト大使館やデンマーク大使館などもあり、とても美しい街並みです。

ヒルサイドテラスに関する情報は下記ホームページよりご覧いただけます。

<http://www.hillside terrace.com/>

2

旧会津本郷町では、まちなかの賑わいを取り戻すため、各種団体とともに中心市街地活性化事業をスタートさせました。また、事業を担う組織(TMO)として「株式会社会津本郷振興公社」が認定(平成 16 年 3 月)されています。

中心市街地活性化事業は、基盤整備等のハード事業と魅力的な店づくりをはじめとするソフト事業を組み合わせられています。右の写真は街なみ環境整備事業により整備された公園です。



町民のみなさんでワークショップも開催しています。



公園ができて、子供たちも嬉しそうですね！



会津本郷町中心市街地活性化事業イメージ

3

二本松市では、中心街の4地区で住民が主体となってまちづくりに取り組んでいます。

竹田・根崎地区のまちづくり

平成 9 年に「竹田根崎まちづくり振興会議」を発足。空き店舗を活用したまちづくりセンター『寄って店』を拠点にまちづくり活動に取り組んでいます



亀谷地区のまちづくり

平成 15 年に「亀谷まちづくり協議会」を発足。まちづくりに対する住民の意識調査などを行い、今後の亀谷地区のあり方を検討しています。



若宮・松岡地区のまちづくり

平成 11 年に「若宮松岡まちづくり連絡協議会」を発足。ちょうちん祭りを PR するための「一日お祭り会館」を開設するなど賑わいづくりに取り組んでいます。

二本松駅前周辺のまちづくり

市では、「市民と観光客が集い語らえる空間づくり」「歴史が織りなす風情を感じながら水と緑にふれあえる回遊性のある街並み形成」を目指しています。



～ちよと一息～

突然ですが、「重要伝統的建造物保存地区」という言葉を聞いたことはありますか？これは昭和 50 年に、全国各地に残る城下町や宿場町などの歴史的な集落や街並みを保存するためにできた制度です。

みなさんよくご存知の大内宿(下郷町)もそのひとつですね！



4

三春町では、「三春町市街地整備基本計画」に基づいて、「活力ある中心商業地の形成」「歴史公園都市の建設」「都市基盤の充実した市街地形成」を目標に中心街の整備を進めています。

「ひと・もの・情報の集まる核・情報発信拠点づくり」の取り組みとして、三春交流館「まほら」を建設。幅広く利用されています！



大町通りでは、快適で楽しい買い物ができるよう、歩行空間に配慮した街並みづくりが行われています。

第3セクター(株)三春まちづくり公社が中心となって、賃貸住宅を併設した集合店舗「みはる壱番館」が建設されました。



地域のみなさんが安心して暮らせるよう、中心街の裏通りでは快適な歩行空間を創出しています。神社仏閣にも配慮されていますね！

5

横町では、JR 磐城塙駅の駅前を町のシンボルゾーンとして位置付け、「木の町はなわ」のイメージづくりと町の主要産業である林業の振興のため「森林」をモチーフにした町立図書館やコミュニティ施設等を建設し、これらが中心街活性化の起爆剤になったようです。

コミュニティラザは、周囲の山々に囲まれた森や林の木陰のイメージで造られ、福島県建築文化省やグッドデザイン賞等、多くの賞を受賞しています。



内部の空間は大きな枝の絡み合う、また、傘の下で休息するようなイメージで造られました。地域の宝物がまた増えましたね！

～ちよーと一息～



最近増えてきた「まちの駅」。「えっ？道の駅の間違いじゃないの??」とお思いの方！それが間違いじゃないんです。

「まちの駅」は、地域に住むみなさんや観光客の方々が欲しい地域の情報を提供する場として、また、人と人との交流の場として設けられたものです。

福島市のコラッセふくしま内にある「ふくしま情報ステーション」をはじめ、県内には約50の「まちの駅」があります。

「まちの駅」マップなど、詳細は下記のホームページ(まちの駅どっと混む)をご覧ください。

<http://www.machinoeki.com/>

羽州街道からみるまちづくり

羽州街道は、福島県桑折宿を起点に青森県の油川宿まで延びる、東北二大街道のひとつです。この街道沿いの様々な地域では、地域資源(宝)を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

そこで今回は、福島県桑折町、山形県金山町、秋田県美郷町(旧六郷町)での取り組みをご紹介します。

Vol.25

1 追分の地・桑折

桑折町は、奥州街道と羽州街道が分岐する重要な地です。この地域の宝である街道・追分に目をつけ「街道を活かしたまちづくり」に取り組んでいるのが桑折町のみなさんです。



平成 17 年の 10 月 8 日から 11 月 6 日にかけて、「奥州・羽州街道 桑折茶屋まつり」が開催されました。このまつりは、地域の熱意により実現した社会実験(主催:奥州・羽州街道桑折茶屋社会実験実行委員会)で、茶屋のほか、様々なイベントが催されました。なかでも、“桑折宿旅人気分ウォーク”は、地域の方々が昔の旅人をイメージし、着物やかつらをつけて街中を練り歩き、注目を集めていました。着ている着物や駕籠は羽州街道でつながっている山形県上市市などから借りたものもあるそうです。このような取組を通して、地域と地域の結びつきが強くなるんですね!



福島河川国道事務所発行『奥州・羽州街道紀行』より

県でもみなさんのお手伝いをしました

復元された道標

分岐点の復元工事が完了しました!

至羽州街道

至奥州街道



県の「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」で復元工事に取り組みました。

地場産材を活かしたまちづくり・金山

山形県最上郡金山町は、町域の4分の3が森林で占めている、自然に恵まれた地です。この森林から生まれるのが、まちの特産品“金山杉”です。この杉から生まれたのが“金山型住宅”で、金山のまち並みづくりには欠かせないものとなっています。

1984年「街並み景観づくり百年運動」が提言され、100年かけて自然（風景）と調和した美しい街並みをつくっていく、また、林業等の地場産業の振興や人と自然の共生を図り続けています。



まちの顔である“金山型住宅”。普及を促す説明会等を行うのではなく、「住宅建築コンクール」（昭和53年から実施）で住宅の普及と金山大工の技術向上をはかっています。

金山型住宅を建てる時には、助成金がもらえるそうです。



旅行作家イザベラ・バードが見た景色と同じ(?)景色が眼下に広がります。



古い土蔵を改造して造った施設でまちの文化活動の拠点となっています。日曜日にはお茶のサービスも!!



清水を活かしたまちづくり・六郷

秋田県美郷町（旧六郷町）は、県内でも特に清水の里として知られ、古くからそこに住む人々の生活の中に存在しています。市街地のどこでも地下水が流れているため、今でも上水道が無いんだとか。

そんな「六郷湧水群」は1985年1月5日、旧環境庁の名水百選に選ばれました。

この他、「水の里百選」や「水源の森百選」などさまざまな百選に認定されています。

「六郷湧水群」の特徴は、人々と生活をともにし、守られながら育ってきた水だということ。どこの清水に行ってもきれいなんです。山の中のきれいな湧水より貴重な感じがしませんか？



ニテコ清水

アイヌ語のニタイ（森林）、コツ（水たまり）からこの名が付けられたとか。また、明治天皇御巡幸の時、この水を差し上げたことから「御膳水」とも言われています。

案内看板のイラストや文字は統一されています。良い目印になりますよね！



まちなかの路上には、案内表示などがいたるところに設置されています。これなら迷うことなくまち歩きできますね！

